

# かるがも便り 第24号

| かるがもの利用状況     |      |
|---------------|------|
| 登録者数          | 288名 |
| 利用者数          | 128名 |
| 令和6年 10月 8日現在 |      |

※利用者数は、年度累計数



暑さが少しずつ和らいで日中もだいぶ涼しくなってきました。外からは秋の虫たちの鳴き声が聞こえてきます。バッタ採りや落ち葉拾いなど、外遊びもじっくり楽しめそうです。

運動会シーズンの保育園や学校もあり、練習の疲れが見られるお子さんがちらほらいました。咳の悪化や嘔吐下痢など、体力を奪われる病気にかかった時は、熱がなくてもゆっくりと身体を休めることをお勧めします。そんなときはぜひ、病児保育室をご利用ください。

☆新規登録者募集中☆



## ☆お子さんが泣いたときどうしてですか？☆

乳児期に泣く理由は「ねむい、おなかがすいた、おしりがきもちわるい」などの要求を示すことが主ですが、1歳半から2歳すぎくらいになると、本人にしかわからない理由が加わります。それが、自我の芽生えです。こんなとき、あんなとき、泣かれると困るという場面が日常にはあふれています。

どうしたらいいんだろうと悩んでいたら、日頃からお子さんと共感し合う機会をぜひ作ってみてください。

お子さんが何に興味があるのかも探れるいい機会にもなるのでぜひ試していただきたいのですが、例えば、出先でバスが通りかかったときに、

「見てみて！バスがきたね、オレンジ色だよ、大きいね、乗ってみたいね。」とうれしそうに話しかけ

その時のお子さんの様子をよく見れば、バスが好きなんだとか、あまり興味がないのかなと

気づくことができます。反応が良かった時には、小さいお子さんは繰り返すことが好きですから、

バスを見かけるたびに声をかけてみる。花や虫、好きなキャラクターなど、なんでも好きやうれしいを

共感する癖をつけておくと、お子さんの気持ちにいつも近づくことができます。

お母さんやお父さんがスマホばかり見ていたら、バスはただ通り過ぎ、花や虫にも気が付くことができません。

楽しいことの共感、泣きたいときの共感にもつながります。いつでも、お子さんと一緒にいることの喜びを感じながら子育てしていけたらいいですね。